



2019年度関甲新学生野球・2部秋季リーグの個人別ランキングが確定しました。3位以上の成績を収めたのは、安打数1位の根本拓真、本塁打1位、打点2位、補殺3位の櫻村昌樹、盗塁阻止率1位、盗塁刺3位の小野寺航希、防御率・奪三振2位の高橋国杜の4名です。また、最終戦が不戦勝になったため、惜しくも規定打席に達せずランク外になりましたが鈴木昂太が、打率.500、出塁率.600を記録しました。詳しくは「一球速報.com」で。

■根本拓真 (安打数1位、打率2位)

3年。主将。水城高出身。高校では1年夏から4番を打ち、大学でも1年春のリーグ戦から出場。小柄ながらも素晴らしいセンスを持ち、チームを引っ張る。新チームから主将を務め、キャプテンシーも◎。

■櫻村昌樹 (本塁打1位、打点2位、補殺3位)

2年。水城高出身。チームの攻守の要。打線では主に3番を打ち、パンチ力のある打撃が売り。チームがチャンス時に期待できる打者。ショートを守り、安定した守備を見せる。投手陣や周りへの声かけもでき、来春以降もチームの中心

となる。

■高橋国杜 (防御率・奪三振2位)

2年。聖和学園高出身。チームのエース。MAX149 km/h。速球が魅力のエースピッチャー。今年の新人戦では準優勝の立役者となり、優秀選手賞も受賞した。来春のリーグ戦も、他大学の脅威となる逸材。

■小野寺航希 (盗塁阻止率1位、盗塁刺3位)

2年。仙台育英学園高出身。2年ながら扇の要の正捕手。野球IQが高く、その場面での明確な判断や指示ができる。強肩が武器。打席でもチームバッティングやセーフティカットなど相手が嫌がるプレーをし、チームに貢献する。

■鈴木昂太 (打率・出塁率 幻の1位)

3年。明秀日立学園高出身。内野はどこでもこなせるユーティリティプレイヤー。元気いっぱい。攻守に足を生かしたスピード感のあるプレーが魅力。今季は長打も増え、持ち味の小技に加え、非常に汎用性が高い選手になった。規定打席に1打席足りず、惜しくも1位の座を逃した。記録よりも記憶に残る選手だ。  
(文・三河樹)